

# キジラミの仲間

幼虫はシラミに似ていて、成虫は小型のセミという感じ。成虫・幼虫ともに植物の新芽・新葉を吸う。虫こぶをつくるものもある。キジラミの仲間は体長2～4mmほどのものが多い。温暖地に多いようだ。この項ではキジラミ科のみを掲載した(日本産既知種66種)。



**クワキジラミ成虫と幼虫**  
クワの葉裏につく。幼虫は扁平で移動性があり、尾部から長い糸状の口物質を出す。写真下の中央は羽化の最中。成虫の体長約3mm。(6月、茨城)  
多く発生すると幼虫の口物質が葉裏でよく目立つ(写真左)。



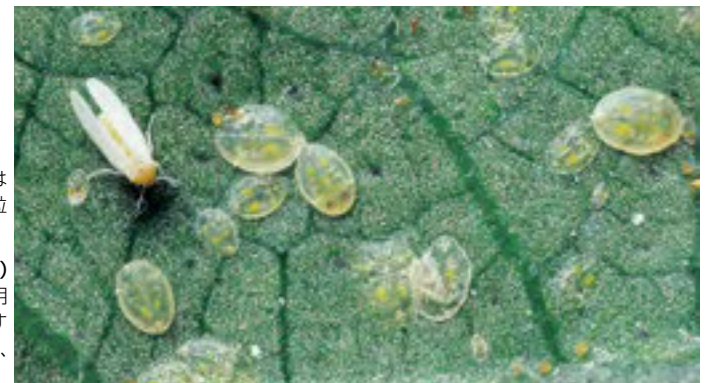
**ナシキジラミ成虫と幼虫**  
ナシの葉裏につく。数多く密集すると葉が反り返る。体長約4mm。(5月、茨城)



**ヤツデキジラミ成虫**  
ヤツデの葉につく。かつては西日本のみで見られたが、関東でも増えている。体長3.6-4.2mm。(5月、高知)

# コナジラミの仲間

成虫・幼虫とも混在した集団になることが多い。成虫は全身が口物質の白い粉で覆われる。ふ化幼虫は歩くが、2齢以降の幼虫は脚がなく固着する。不完全変態だが終齢幼虫の表皮内で蛹状になるのが特徴。植物を吸汁し排泄物で汚すほかウイルス病を媒介する種があり、農作物の重大な害虫になっている。この項はすべてコナジラミ科。



**大量発生したタバココナジラミ(上)**  
トマト、キュウリなどの野菜をはじめ多くの植物につく。小さい粒状の卵も見える。  
**タバココナジラミ成虫と幼虫(下)**  
翅のあるのが成虫、丸くて半透明なのが幼虫。ウイルス病を媒介する。成虫の体長約0.8mm。(1月、高知(温室)) (p61食)



**ミカントゲコナジラミ成虫・卵(左)と幼虫(右)**  
ミカン類につく。幼虫の体側の白いのは口物質。成虫の体長約1.3mm。

**オンシツコナジラミ成虫と幼虫**  
野菜や豆類、花類の害虫。暖地における野外での越冬態は卵や幼虫。3齢、4齢幼虫の突起と刺毛は分泌物。1974年に発見された帰化昆虫。成虫の体長約0.8mm。

# トコジラミの仲間

トコジラミをはじめ○○ジラミの名は、シラミ(シラミ目、p101)に似ているというのであろう。トコジラミはシラミと同様に吸血性だ。油くさいにおいがするとされるが、カメムシの仲間なのでうなずける。

**トコジラミ**  
本種は人から血液を吸う。カメムシの仲間だが翅はなく寄生のために特殊化したと考えられる。昼は柱のすき間などに潜み、夜間活動する。刺された痕が二つ並んで残るのは、二度刺しをするからなのであろう。体長5-8mm。トコジラミ科。俗にナンキンムシといわれるが、これは、かつて中国で猛威を振るったためであらう。日本へは江戸時代末期ごろに侵入し定着したとされる。

